

# <指標No.11 子どもが体験・体感できる場>

## 資料2-3 第一回環境審議会 質疑回答

第一回環境審議会でのご意見		環境部の考え方
・市内の子どもたちが平等に生物多様性等体験、体感できるのにはまだ努力が必要と感じる。（評価案A→B）	道下	・江戸川ビオトープでは、専門員による調査が行なわれ、案内板を作成し情報提供をしております。今後は、市のホームページでの情報発信や自然観察会などでビオトープを含んだ講座も検討し体験・体感できる機会を増やしてまいります。
・各学校に委ねられている学校ビオトープの実施状況について記載が必要ではないか。	小山田	・市内小学校4校、中学校1校でビオトープを実施しております。学校ビオトープでは、水草やメダカが飼育されており、授業や休み時間に子どもたちが自然を体感できるようになっていることを明記しました。

第一回 事務局案	第二回 事務局案
A	B

評価理由

・生物多様性セミナー等における学校ピオトープの啓発や、各学校における学校ピオトープの実施により、子どもたちが体験・体感できる場を設けている。

・江戸川ビオトープの維持管理等により、子どもたちが体験・体感できる場を設けている。

⇒・**ビオトープを実施している学校では、水草やメダカの飼育を行っており、授業や休み時間に子どもたちが自然を体感できるようにしている。**

・江戸川ビオトープの維持管理等により、子どもたちが体験・体感できる場を設けているものの、**体験できる場を増やす努力が必要である。**

## 資料2-4 評価結果の詳細

施策	指標	取組実績及び取組内容							2020 (令和2) 年度 達成目標
		2014年(平成26年)	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	
近市 な民 自然に親しまれる再生身	子どもたちが体験・体感できる場	各学校で実施いちかわ戦略周知のため開催	学校ビオトープは各学校に委ねている推進会議の開催は、各学年で実施(2回開催)	学校ビオトープは各学校で実施生物多様性いちかわ戦略推進会議及び担当者会議を各1回開催した	生物多様性セミナーにおいて学校ビオトープの啓発を実施1/4程度の学校で小規模な学校ビオトープを設置	市内小・中学校の教員を対象とした生物多様性セミナーを行い、学校ビオトープの啓発を実施(当該セミナーは5/15・16に実施)	学校ビオトープは各学校に委ねている(昨年度、学校ビオトープに関する啓発は未実施)	学校ビオトープは各学校に委ねている(学校ビオトープに関する啓発は未実施)	子どもたちが体験・体感できる場の形成
	【具体的取り組み】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ビオトープは、各学校に委ねている。</li> <li>・江戸川ビオトープの適切な維持管理作業を行っている。</li> <li>・江戸川ビオトープ看板に、季節ごとに見られる生き物を写真つきで紹介している。</li> </ul>							

# <指標No.22 地域戦略の事業者認知度>

## 資料2-3 第一回環境審議会質疑回答

第一回環境審議会でのご意見		環境部の考え方
熊谷	・認知度合いの評価指標を設定するのは難しいように思います（先日、ご説明いただいた際に市内の事業者数は1万社以上だったように思いますので、市内の事業者の認知状況を把握するのは現実的には難しいように思います。） 達成目標を「事業者に対する緑地の管理に関する知識と技術の普及」としてはいかがでしょうか。	・ご指摘を踏まえて、指標及び達成目標の見直しを検討します。
	・指標が目標に全く合っていません。	
石原		

第一回 事務局案	第二回 事務局案
C	D
評価理由	
<p>・施策「事業者による緑地の管理」を評価する指標として、「地域戦略の事業者認知度」は適切と考えられるが、2020年度達成目標である「いちかわ戦略の市内事業者への認知」の達成状況が把握できるよう、現状の取組実績及び取組内容に加え、事業者アンケート等により認知度を把握する必要がある。</p> <p>⇒・施策「事業者による緑地の管理」を評価するために、現行の「地域戦略の事業者認知度」に代わる、より適切な指標を検討する必要がある。</p>	

## 資料2-4 評価結果の詳細

施策	指標	取組実績及び取組内容							2020 (令和2) 年度 達成目標
		2014年(平成26年)	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	
事業者による 緑地の管理	地域戦略の事業者認知度	生物多様性セミナーへの参加事業者数:16社	生物多様性セミナーへの参加事業者数:51名	生物多様性セミナーへの参加事業者数:14名	生物多様性セミナーへの参加事業者数:14名	学校(市内小中学校教職員)を対象に生物多様性セミナーを実施:54名 ※市内民間事業所を対象とした、いちかわ戦略の認知促進活動は未実施	市内民間事業所を対象とした、いちかわ戦略の認知促進活動は未実施	市内民間事業所を対象とした、いちかわ戦略の認知促進活動は未実施	↑いちかわ戦略の市内事業者への認知
	【具体的取組み】	専門家を講師に招き、事業者を含めた市民に生物多様性について理解を深めてもらった。 H26 講師：北越製紙、地域環境計画（参加者28名） H27 講師：山崎製パン、緑のボランティア（参加者51名） H28 講師：県中央博物館、NPO日本鳥類保全協会（参加者17名）、講師：セイコーインスツル、都市鳥研究会（参加者39名） H29 講師：NECファンリシーズ、手賀沼水生生物研究会、都市鳥研究会（参加者35名） H30 講師：日本自然保護協会（参加者16名）、講師：都市鳥研究会（参加者38名） R2 コロナのため未開催							

# <指標No.31 地域戦略の事業者認知度>

## 資料2-3 第一回環境審議会質疑回答

第一回環境審議会でのご意見	環境部の考え方
・指標が目標に全く合っていません。	・ご指摘を踏まえて、指標及び達成目標の見直しを検討します。
石原	

第一回 事務局案	第二回 事務局案
C	D

### 評価理由

・施策「事業活動における生物多様性への配慮」を評価する指標として、「地域戦略の事業者認知度」は適切と考えられるが、2020年度達成目標である「生物多様性に配慮した事業活動の普及」の達成状況が把握できよう、現状の取組実績及び取組内容に加え、事業者アンケート等により認知度を把握する必要がある。  
 ⇒・施策「事業者における生物多様性への配慮」を評価するために、現行の「地域戦略の事業者認知度」に代わる、より適切な指標を検討する必要がある。

## 資料2-4 評価結果の詳細

施策	指標	取組実績及び取組内容							2020 (令和2) 年度 達成目標
		2014年(平成26年)	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	
事業活動における生物多様性への配慮	地域戦略の事業者認知度	生物多様性セミナーへの参加事業者数:16社	生物多様性セミナーへの参加事業者数:17社	生物多様性セミナーへの参加事業者数:10	生物多様性セミナーへの参加事業者数:10社	市内小中学校の教員を対象にした生物多様性セミナーを開催(当該セミナーは、H30.5.15、5.16の2日間開催)	令和2年2月21日に千葉商科大学にて開催し、市川市の自然と行政における野生生物対策について講演	千葉商科大学にて、市川市の自然と行政における野生生物対策について講演を予定していたが、新型コロナで中止	↑いちかわ戦略の市内事業者への認知
	【具体的取組み】	専門家を講師に招き、事業者を含めた市民に生物多様性について理解を深めてもらった。 H26 講師：北越製紙、地域環境計画 (参加者28名) H27 講師：山崎製パン、緑のボランティア (参加者51名) H28 講師：県中央博物館、NPO日本鳥類保全協会 (参加者17名)、講師：セイコーインスツル、都市鳥研究会 (参加者39名) H29 講師：NECファシリシーズ、手賀沼水生生物研究会、都市鳥研究会 (参加者35名) H30 講師：日本自然保護協会 (参加者16名)、講師：都市鳥研究会 (参加者38名) R2 コロナのため未開催							

# <指標No.32 地域戦略の市民認知度>

## 資料2-3 第一回環境審議会質疑回答

第一回環境審議会でのご意見		環境部の考え方
・ 市民認知度が50%を切っている状態ではどうなのか。勿論市民の責任もあるが。 (評価案A→B)	道下	・ 年々認知度は向上しているため評価をAといたしました。ご指摘のとおり、認知度の向上に更なる努力が必要であると、評価をAからBへ変更いたしました。
・ 市民の認知度は向上しているものの、認知度36%でA評価は低いのではないかと。	小山田	

第一回 事務局案	第二回 事務局案
A	B

評価理由

・ eモニター制度によるアンケート調査によると、いちかわ戦略の認知度の向上が見られる。  
⇒ ・ eモニター制度によるアンケート調査によると、いちかわ戦略の認知度の向上が見られるものの、更なる努力が必要である。

## 資料2-4 評価結果の詳細

施策	指標	取組実績及び取組内容							2020 (令和2) 年度 達成目標
		2014年 (平成26年)	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	
のる消費活動における生物多様性への配慮	地域戦略の市民認知度	いちかわ戦略を知っている市民の割合:11%	いちかわ戦略を知っている市民の割合:20%	平成29年度に市民認知度調査を実施予定	いちかわ戦略を知っている市民の割合:31%	いちかわ戦略を知っている市民の割合:20%	いちかわ戦略を知っている市民の割合:23% (224人/990人)	いちかわ戦略を知っている市民の割合:36% (388人/1081人)	↗生物多様性に配慮した事業活動の普及
	【具体的取り組み】	eモニター制度によるアンケート調査を毎年実施し、いちかわ戦略の認知度の推移を確認している。							